

2026 年 06 月 23 日 (火) 【外為 L a b】松田哲
タイトル: 【キャリー・トレードのアンワインド】

現在 (2026 年 6 月 23 日) の主要通貨の政策金利は以下の通り。

円 (JPY) の政策金利は、1.00%

ドル (USD) の政策金利は、3.50%~3.75%

ユーロ (EUR) の政策金利は、2.40%

ポンド (GBP) の政策金利は、3.75%

豪ドル (AUD) の政策金利は、4.35%

先週 (6 月 16 日) の日銀金融政策決定会合で、マーケットの事前予想通りに、0.25%の政策金利引き上げが発表された。

ということは、円 (JPY) の政策金利は、先週に、0.75%から 1.00%に引き上げされたのだが、引き続き、円の政策金利が、突出して低い。

+++++

そもそも、『金利とは、何か?』と考察すると、それは、『インフレ率』に収斂する、と考えます。

それゆえに、現時点で、ドル (USD)、ポンド (GBP)、豪ドル (AUD) の各国のインフレ率は高い、と判断できます。

それに対して、円 (JPY)、ユーロ (EUR) の国々は、相対的にインフレ率が低いことになります。

ただし、その判断は、現在の政策金利の高低を比較しただけであり、例えば、日本のインフレが加速して上昇している事実を考慮すれば、円 (JPY) の政策金利は、今後、上昇するだろう、と推測できます。

+++++

先週 (6 月 16 日、17 日) の米国 FOMC では、事前の予想通りに、政策金利据え置きが発表されました。

ただし、この FOMC で、マーケット (金融市場) は、年内に米国が利上げを行うであろう、という思惑を強めました。

先に述べた通りに、円（JPY）の政策金利は、今後、上昇するだろう、と推測できますが、ドル（USD）の政策金利も、今後、上昇するだろう、という推測が強くなった訳です。

+++++

低金利通貨を借り入れして、高金利通貨に交換し、それを運用するキャリー・トレードは、いつの時代も重要な運用方法の一つです。

このキャリー・トレードの手法で、低金利の円（JPY）から、高金利のドル（USD）などへの投資は、このところ、積極的に行われてきた、と考えます。

現時点でも、まだ、キャリー・トレードが行われている、と考えます。

+++++

繰り返しますが、現時点では、円（JPY）の政策金利は、突出して低い状況です。

そして、円（JPY）の政策金利が引き上げられるとしても、その利上げ幅は相対的に小さいであろう、と推測できます。

だから、少しばかり、円（JPY）の政策金利が引き上げられたとしても、高金利通貨と比べると、その金利差は、大きいままである、と推測できます。

+++++

しかしながら、円（JPY）の政策金利が、今後、断続的に上昇していく場合は、キャリー・トレードが縮小していくことになります。

そして、過去にキャリー・トレードによって運用されていた資金が、回帰される可能性も高くなります。

つまり、この資金回帰とは、分かり易く言えば、高金利通貨から、円（JPY）へ戻す、ということなのです。

+++++

キャリー・トレードを終わらせて、資金を元に戻すことを、「キャリー・トレードのアンワインド」と呼びます。

現時点では、「キャリー・トレードのアンワインド」は起きていない、と考えています。

けれども、先々に「キャリー・トレードのアンワインド」が起こる可能性があることに、そろそろ留意する必要がある、と考えます。

+++++

(2026 年 06 月 23 日東京時間 13 : 30 記述)